

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
人権論				妻木 進吾	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	1年次	集中講義	有 (名)・無	科目等履修・聴講
授業の概要 (Course Description)					
<p>*本講義の目標は、「他人を差別してはならない」「他人を傷つけてはならない」「他人に優しく」といった禁止や命令について学ぶことではない。人権概念とそのあゆみについての基礎を理解した上で、フリーターやニートと呼ばれる若者たち、正社員や学生アルバイトといった働き方など、「若者と働くこと」を切り口、あるいは出発点として、実証的なデータに基づきながら人権について学んでいく。もって、現代日本社会の人権課題について理解を深めるとともに、自らの権利について学び、人権について意見を主張できるようになることを目標とする。</p> <p>*ビデオ視聴なども活用して講義を展開する。なお、受講生数によってはグループワークなどを行う可能性がある。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人権概念とそのあゆみについての基礎を説明できる。 2) 現代日本社会の人権課題について、「若者と働くこと」を切り口に説明できる。 3) 人権について自分の考えを主張できる。 4) 権利を使いこなす主体になることの重要性を理解する。 					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	イントロダクション：思いやりとやさしさと人権				
第 2 回	人権概念とそのあゆみ				
第 3 回	「フリーター」の急増と社会問題化 (1)				
第 4 回	「フリーター」の急増と社会問題化 (2)				
第 5 回	「フリーター」「ニート」急増の構造的背景				
第 6 回	「フリーター」「ニート」になるのは誰か? (1)				
第 7 回	「フリーター」「ニート」になるのは誰か? (2)				
第 8 回	「フリーター」「ニート」になるのは誰か? (3)				
第 9 回	「ビーチフラッグスの比喻」と「家族依存社会」				
第 10 回	変わる正社員の労働 (1)				
第 11 回	変わる正社員の労働 (2)				
第 12 回	働く者の権利について学生アルバイトを通して考える (1)				
第 13 回	働く者の権利について学生アルバイトを通して考える (2)				
第 14 回	働く者の権利について学生アルバイトを通して考える (3)				
第 15 回	まとめ：自己責任時代と人権				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>授業中に配布するレジメやコミュニケーションカードのまとめを使って復習を行う。 授業内容について、家族や友人などと話し合うことで、学びを深める。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
平常点 試験	(40%) (60%)	講義時に求める提出物などにより授業到達目標の達成度を評価する。これに授業への貢献度も考慮し、平常点は40点満点で評価する。試験は論述形式で講義内容理解と授業到達目標の達成度により60点満点で評価する。 平常点・試験のいずれも、到達目標について特筆すべき水準の場合は90%以上、優れた水準の場合80%以上、一定達成している場合は70%以上、最低限の水準を満たしている場合は60%以上の点数とする。最低限の水準を満たしていない場合は60%未満（不可）とする。
テキスト (Textbook)		【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 ※特になし。授業で配布するレジユメを中心に行う。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		毎講義のレジユメの中で、適宜、参考文献を紹介する
備考 (Other Information)		3分の1を超える欠席は、単位不可とする。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		大学事務を通して連絡すること